

報告⑨

(特集)各地の高校魅力化プロジェクトを紹介 奥尻高等学校の町立移管と高校魅力化(下)

島の観光産業の変化と島唯一の高校(奥尻島観光協会)

青山学院大学 樋田 大二郎

奥尻島観光協会の井口和弘事務局長に対してインタビューを行った。

奥尻島では、二〇一九年三月末日に、島で一つしかない大規模宿泊施設の「奥尻湯ノ浜温泉ホテル緑館」が閉館となった。これにあわせて、奥尻島への二つのフェリー航路、奥尻江差航路と奥尻せたな航路のうち、後者が休止となった。これらのことが奥尻島の観光業に与えた影響は大きい。発地型観光旅行の団体客が減少し着地型観光の個人客の呼び込みが求められるようになった。

発地型観光旅行はマスツーリズム時代に多く見られた旅行の方法であり、都市で人を集めて観光地に送り出す送客型ビジネスである。これに対して着地型観光旅行は着地側で旅行商品をプロデュースする現地集合・現地解散が基本の形となる集客型ビジネスである。後者は体験・交流・学習が目的になることが多い。地域のNPOや観光協会、ボラ

ンティアガイドなどの果たす役割が重要となる。インターネットにより着地側から旅行者に対してダイレクトに情報発信する。

インタビューでは、こうした観光業の動向の中で、ボランティア、企画提案、SNSでの発信など、高校生が着地型観光の活性化の取り組みに協働していることが分かった。地域学校協働では、生徒たちは着地型観光に関して、町おこしワークショップの観光班、ボランティア部、インターンシップ生が観光協会と協働して島を盛り上げている。

奥尻高校が町立移管する前は、観光面での地域高校協働はしておらず、そもそも観光協会からは高校に対して働きかけはしていなかったとのことであった。町立移管後は、奥尻高校のほうから皆さんと一緒に島を盛り上げていきたいというようになり、町おこしワークショップも町立になってから、じゃあということが始まった。高校生

は高校生ならではのアイデアとボランティアとしての協力があるということであった。

井口和弘事務局長によると、「何やるにもイベントっていうのは結構ボランティア」という状況の中で、商売をしている人とは違う参加形態の高校生に助かっている。若い人の意見が聞けること、そして近年、(個人客の増加とともに)重要な発信手段となっているSNSを使っての情報発信をしてもらえる。

井口事務局長は、高校生が将来Uターン、Sターンして定住人口となることその他に、卒業生の関係人口化についても考えており、そのための取り組みをしたい、と話した。

観光産業から見た地域人材に必要な資質、そしてその資質を主体的に育てるための配慮について、とても貴重なことを教えていただきました。お忙しい中、お時間をいただき、ありがとうございました。

1 観光産業の活性化

——観光に関わっての地域活性化の状況はどんなふうでしょうか？

井口和弘事務局長…観光客が入ることで漁業がうるおうことと、あとは宿泊業とか、土産屋や各種飲食店の活性化につながると思います。通常の商店でも、民宿、旅館、飲食店等からの仕入れもありますので、その部分で大きく観光客が増えることで、活性化につながると思っています。

います。

——島の人から、この島は二〇一九年に島唯一の大規模宿泊施設である緑館さんが閉館されたことで団体客を呼び込むのが難しい状況になっていると聞きました。団体で来る人よりも個人で来る人の方が多くなってきているという観光客の変化っていうのもあるんでしょうか？

井口事務局長…そうですね、団体のお客様が来るのはほとんどが緑館で、団体バスも年間で一五〇台前後来ていました。九割方が緑館でした。緑館閉館の影響は大きいです。

——そういう中で私がインターネットで見た印象では、自転車とかトレッキングとかの個人客を対象とした情報発信をしていたように思います。

井口事務局長…そうですね。はい。

——それから民宿の女将さんが親切だったとかそういった発信もあって、団体客用とは違うPRをなさっているというふうに見えました。

井口事務局長…そうですね。今言ったサイクリングのツアーとかですね、桧山管内の瀬棚、江差含めた部分で協力していくような形です。

2 高校と協働すること

——そういった中で、高校生と協働する可能性とか利点はどんなことになるんでしょうか？

井口和弘…そうですね、実は私、奥尻高校さんの町おこしワークショップの観光の班を担当しています。町おこしワークショップだけでなく、部活動もいろいろ分かれて、観光ではなく祭りの部分なんですけど協働しています。八月三日になべつる祭りありまして、高校生さんにアイデアを募って、お客様が喜んでくれる企画を立てていただけないかっていうことで奥尻高校さんにアイデアをいただきました。そういうような形で協力しながら島を盛り上げていただけてるんです。

——健康なんとか…の企画ですね。

井口事務局長…そうなんです、いろいろ三つくらいアイデア上がったんですけど、祭の実行委員会では足つぼりレーを選ばせていただきました。

——高校生じゃないと考えられない。

井口事務局長…そうですね。私も祭りを何十年も続けているんですけども、どうしてもやるのが例年同じになります。この機会に若い人の意見なんかも取り入れてっていうことで、はじめてそういうような形でやってみました。



——高校生が参加協力するっていうのは観光協会さんにとっては、どんな評価になっていきますでしょうか？

井口事務局長…ほんとにうちらが全然思いつかないアイデア出していただきました。その他にマラソン大会も開催しておりますが、ボランティアの部分で、一生懸命やっていたり、祈漁太鼓も奥尻高校さんで披露させていただいております。

——それはなんですか？

井口事務局長…祈漁太鼓です太鼓ですね。

——これは町立になる前からですか？

井口事務局長…いやなってからですね。

——町立になってから、協働のネットワークが良くなったと言ったことでしょうか。

井口事務局長…良くなってると思います。

——町立になるまでは、そついつことは難しかったですか？

井口事務局長…そうですね、難しいっていうかこっちからお願いして

なかった部分もいろいろあるかと思うんですよ、

奥尻高校は皆さんと一緒に頑張っていきたくんですけど。町おこしワークショップも町立になってからじゃあということでした。

——今回の観光祭りの高校生企画はこれは高校生の発案ですか。

井口事務局長…町おこしワークショップの時に、私の方からマンネリ化してるんでなんか高校生のアイデアないですかって持ちかけてるのもあるんですけども。

——高校生の「ノリ」は良かったですか。

井口事務局長…いいですね。そして一生懸命でした。

3 つれじふこと

——実際に協働してなにかをする段階で苦労されるのはどんなことがありますでしょうか。運営していく際の配慮とかいろんなことがあると思うんですけど。

井口事務局長…まあいろんなことがありますよね。まず何やるにもイベントっていうのは結構ボランティアなんでね。高校生と一般の方のうち、一般の方は自分の商売やっているので、それでボランティアア



てなると商売の時間を割くのは非常に厳しい部分もあります。しかし、高校生はそこまでの厳しさはないんです。

——高校はこついったことに前向きな感じですか。

井口事務局長…前向きですね。生徒も先生も。

——高校とは、町おこしワークショップ以外のことで、コミュニケーションをとるような場所はあるんでしょうか？

井口事務局長…高校は特にはないです。先生とも特にはないです。ただインターシップは、毎年受け入れしていて、いい例だと今一人うちの職員、今年初めて奥尻高校から新卒で観光協会の職員になりました。それはインターシップを経たことでした。

——それでは苦労されてることの裏返しで、良かったこと、うれしいことはどんなことでしょうか。

井口事務局長…若い人の意見が聞けることと情報発信してもらえることです。高校は今すごい授業してらんでね、そういうSNSなんかも。高校生はパソコンを使っていろんな情報発信をしています。

——高校生がSNS使って発信されたりもするんですね。

井口事務局長…するんですね。はい。

——高校生がSNSで発信するというのは、島のことを知ってもらう意味でそれから島に来てもらうのに効果的ですか。

井口事務局長・効果的ですよね。はい。今回も祭りなんかでもFacebookでこれちょっと見たよって。こういう例えばテレビでなんか紹介されこういうゲームもあるんだねっていうそういうふうには。

広まりますね。すごいですね。SNSってというのは、結構いろんな口コミが広まっていくんですけど。

4 インタビュー項目終了後のフリートーク

——その他、井口さんの方で高校生との協働について、なんかこういうこと見たらいいんじゃないだろうかとか、こういうことを考えた方がいいではないかということはありませんか？

井口事務局長・難しいな。今、実はですねご存じかと思うんですけど、奥尻高校は島外から募集されています。で、三年間はここにおいて、そのあと島を出る生徒数はすごい多いですよ。なんとか島に居た子供たちがなんらかの関わりですつと繋がりがあればいいと思います。そうすれば島の活性化があるのかなど。もちろん、ここに残っていただければ一番ありがたい。そういう部分でうまく島外生が三年間だけじゃなくその後も住んだり関係を続けていくようになる取り組みが出来ればいいなと思っています。

——高卒後すぐ就職というのは難しいと思うのですが、一旦外に出て戻ってきて起業や承継するような、そういうようなチャンスはありそうですね？

井口事務局長・なかなかそういうのはねえ。本来ならば今いる高校生の例えば漁師になりたいっていう子も一人か二人いるんですけど、なにせ現状は漁業は、失礼なんですけどかなり厳しい状況にあるんですね。

——魚の様子が変わったという話を聞きました。

井口事務局長・ですね。イカも取れなくなったり、ホッケとかも取れなくなってるんで。本来ならそういうのも子供たちが残っていただけけるようなそういう環境作りしたら良いのですが。民宿旅館なんかもやはり今、後継ぎがいなくて苦戦してるところがあります。下手したらあと五年たつたらもう今の代で終わっちゃう民宿旅館なんかもあります。うまくそこをなんとか継ぐ人とかいればほんとにこちらもありがたい、逆効果になるんですよお客さんが宿泊する場所がないっていうのがですね。

あと島には大きな企業もないし、就職する場所っていうのはなかなか、ほんとに公務員くらいしかありません。ほんとに何らかの形で、いいアイデアを出して、起業できるような。

——観光が着地型に変わりつつあって、個人がここに来てさあ何をしよって……。

井口事務局長…しようって。そうですね。まあいい例が、外部から来た方が移住されてきて神威脇（かむいわき）地区に住んで民宿と、アウトドアのカヌーとかSUPってサーフボードに立って乗るような形で本格的な海の体験型をやってるんですけど。ただ、期間が決まっていますのでね、冬がちよっと厳しいからその対策も必要に思います。

— 団体客でない立場からすると神威脇っていうのは、ワイナリーもあるし温泉もありますし、北追岬もある。結構魅力があるところだと思いますんですけど。そういうところの魅力を例えば若い人が、うまいこと発信してもらえないものでしょうか。

井口事務局長…そうそうそう。そうですね。

— 神威脇の町営温泉のおじさんが、緑館のお湯よりもうちのお湯の方が良いと言っていました。

井口事務局長…お話をされたのですか。

— 夕日を見たいと思って、二日間通いました（笑）。

井口事務局長…おそらくあの温泉から緑館の方にひいていただけども、味のある温泉で。

— 新しいタイプの観光は、若い人がやってくれるでしょうか。

井口事務局長…今は、ほんとに体験体験となってます。厳しいって言ったらたはおかしいですけど、さっき言った通りシーズンが短いので、ほんとに冬の体験ができるようなそういうのがあればいいのですが。自分としてはそういう体験があったらいいなとおもいますが、それを誰がやるんだってなるとねえ。その部分はちよっと難しい部分は。まあ果たして温泉だけで人が来るのかとかね。

— 町がいろいろアンケートとってますが、奥尻に定住する理由は、やはり一つは就職による部分、職なんですよ。あと自然鑑賞っていうか景観見に来るっていう。自分としては職の方でうまく取り組みが出来ればって、まあ今漁業の青年部ってあるんですけど。

— 今日はお忙しい中、ありがとうございました。